



発行 真宗大谷派 高山教務所
発行所 大町 慶華
〒506-0857 高山市鉄砲町6番地
(0577) 32-0776
毎月20日発行 50,000部
三市一郡無料配布
印刷 山都印刷株式会社

念じられ
照らされて

沖繩にある菩提樹

長谷 暢



〔略歴〕
一九七三年滋賀県生れ。琉球大学、大谷専修学院、大谷大学大学院修士課程卒。二〇〇一年より真宗大谷派沖繩開教本部職員。法政大学沖繩文化研究所国内研究員。

今年各地で戦後70年の行事が開催されますが、沖繩では組織的な地上戦が終結したとされる6月23日を中心になります。この日を県が「慰霊の日」と定め、学校や公共機関が休みとなり、県主催追悼行事以外にも各集落で行事が開催され、沖繩中が戦没者の追悼と平和の想いを確かめる一日となっています。

表現でした。真宗の伝統が強い地域の寺院に生まれ育ったこともあり、日常生活で耳にしない言葉でした。しかし、そんな違和感も数年過ぎすうちになんとなく慣れてしまいましたが、ある「菩提樹」との出会いをとおして「慰霊」についてあらためて考えることになりました。

この菩提樹を縁に毎年「成道会」(お釈迦様が悟りをひらかれた12月8日に開催する仏事)をお釈迦様の悟りと「慰霊」それから「平和」のテーマで開催しています。この法会で、私は「慰霊」という言葉について大切なことを教えられました。

お釈迦様の時代も親鸞聖人の時代も、まさに人が人を殺す世界の真つ只中にあつたのです。沖繩の菩提樹は70年前の戦争で手のひらを血に染めた現場にあります。そして沖繩は、いまも米軍基地という殺しあうことを目的とする施設の中にあるのです。

「海の水が一樣に塩辛い」と同様に、世界は煩惱に満ち溢れている。集まった悪党は手に髑髏を持ち、手のひらを血で染め、互いに殺しあっている。このような悪の衆生の中にあつて、私(釈迦)は菩提樹の下で悟りをひらいた。」(『教行信証』化身土巻)

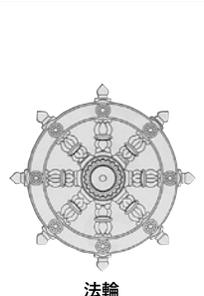
一四〇〇年代後半、白川郷を領有しようとしていた内ヶ島氏は真宗門徒の勢力を恐れ、正蓮寺(照蓮寺)を焼き討ちにし、正蓮寺は滅亡の危機に陥りました。そこに、飛騨・越中の三人の蓮如上人の門弟が中心となり、正蓮寺の再興に向けて門徒たちが立ち上がったのです。

近江の武士、故石久之丞唯乗は応仁の乱の後、白川郷牧ヶ野(荘川町)に隠遁していましたが、ある年に吹雪に会い亡くなり、残された子は正蓮寺に預けられました。その子は文明十三(一四八二)年に蓮如上人の門弟となり、唯乗と名をのりました。その後、牧ヶ野に道場を開きました。非常に情け深い人で、生き物にも優しく、春には道場に燕がたくさん集まり、巣をたくさん作ったため、「燕の蔵」と呼ばれました。現在は荘川町寺河戸の燕聚山遊浄寺となっています。

三人は蓮如上人をたずね、飛騨の中心道場の再興を懇願しました。蓮如上人はこの願いを聞き、子である本願寺九世実如上人に取り計らいました。そして内ヶ島氏と正蓮寺は本願寺の計らいにより和睦しました。この三人の働きかけがなかったら、飛騨に真宗は息づいていなかったかもしれません。

現場を目的の当たりした中で、自分の親兄弟、子どもの死とどう向き合うのかという時、「悼む」や「弔らう」では間に合わず、適切とは言えないが、「慰霊」という表現しか見当たらなかったのではないかと、とある講師が指摘されたことです。「慰霊」という表現の向こう側に、表現しようのない深い痛みや悲しみが込められていることを教えていただきました。

一つは「対話」なのではないかと思われました。争うことをやめられない煩惱に振り回される私たちかもしれないませんが、しかしそれを推し進めるのではなく、その争いを平和的な対話をおして解決することが、菩提樹と法輪が象徴する仏教徒のすがたなのだと思います。



佐奈姫忌法要
墓前で法要を営み、聞法の座をもちます。
日時：6月26日(金)午後1時30分から
会場：佐奈姫墓所・松本町公民館
法話：大町慶華 輪番
※別院から送迎があります。現地には駐車場がありませんので、参拝される方は午後1時までに別院事務所に集合ください。

この「慰霊」ですが、私には少し違和感のある



沖繩島最南端の糸満市は、沖繩戦で多くの住民が戦場に巻き込まれ亡くなられた場所です。集落によっては住民の過半数が巻き込まれ、一家が全滅した家系も少なくありません。そこにインドから分木された菩提樹が植樹されています。日本各地にも菩提樹があります

沖繩戦に巻き込まれ死んでいった人々の遺族は、大量の人が殺し、殺され

お釈迦様の時代も親鸞聖人の時代も、まさに人が人を殺す世界の真つ只中にあつたのです。沖繩の菩提樹は70年前の戦争で手のひらを血に染めた現場にあります。そして沖繩は、いまも米軍基地という殺しあうことを目的とする施設の中にあるのです。

お釈迦様の時代も親鸞聖人の時代も、まさに人が人を殺す世界の真つ只中にあつたのです。沖繩の菩提樹は70年前の戦争で手のひらを血に染めた現場にあります。そして沖繩は、いまも米軍基地という殺しあうことを目的とする施設の中にあるのです。

お釈迦様の時代も親鸞聖人の時代も、まさに人が人を殺す世界の真つ只中にあつたのです。沖繩の菩提樹は70年前の戦争で手のひらを血に染めた現場にあります。そして沖繩は、いまも米軍基地という殺しあうことを目的とする施設の中にあるのです。

お釈迦様の時代も親鸞聖人の時代も、まさに人が人を殺す世界の真つ只中にあつたのです。沖繩の菩提樹は70年前の戦争で手のひらを血に染めた現場にあります。そして沖繩は、いまも米軍基地という殺しあうことを目的とする施設の中にあるのです。

お釈迦様の時代も親鸞聖人の時代も、まさに人が人を殺す世界の真つ只中にあつたのです。沖繩の菩提樹は70年前の戦争で手のひらを血に染めた現場にあります。そして沖繩は、いまも米軍基地という殺しあうことを目的とする施設の中にあるのです。

☎テレホン法話(0577)34)2313 ☎6月21日~30日:田口勲氏「真宗同朋会」 ☎7月1日~10日:松本大輔主計「教務所」 ☎7月11日~20日:鳥井龍泉氏「敬勝寺」 宗教トラブル相談窓口(0577)13210763

家庭で読む

女と男の

ナムアマミダブツ⑧

藤場 芳子



か 会長は 男の人に 押し付けて

長はやっぱり男の人じゃない」と言い、結局そのお父さんが引き受けざるを得なくなってしまう。

「男だから」「女だから」

こういう状況は保護者会だけではなく、町内会、様々な会合、趣味の会など、あちこちで見受けられるのではないのでしょうか。

です。女性は日ごろ男女平等を主張しているのに、いざとなると「長」の付く仕事をなぜ引き受けられないのか。「女だから」を言い訳にしているとしたら、それは虫がよすぎませんかという厳しい指摘がこの句には込められています。

自灯明 法灯明

どんな仕事であれ、引き受けるか否かは最終的には自分で決めなければなりません。そんな時、何を基準にしたらいいのでしょうか。

その日はクラスの委員長を決める日でした。参加したお母さんたちは「フルタイムで働いているので」とか「親の介護があるので」「手のかかる小さい子がいるので」などと理由をつけてなかなか引き受けようとしません。

押し付ける理由

今回取り上げた句は「会長は男の人に 押し付けて」です。ここで言う会長というのは企業の会長ということではなく、男女など関係なく誰でもが互選でなれる小さい規模のリーダー役という意味

も「それがいいと思います。委員

次回は酒井義一さんの「私を照らすひかりの言葉⑨」です。

ご壇案内

6月

28日(日)真蓮寺「鉄砲町」

7月

4日(土)頓乗寺「萩原町」

5日(日)西方寺「清見町」

11日(土)永養寺「萩原町」

12日(日)速入寺「石浦町」

13日(月)願生寺「岡本町」

15日(水)妙覺寺「萩原町」

17日(金)久々野教会

18日(土)本光坊「下呂森」

19日(日)往還寺「一宮町」

26日(日)蓮光寺「馬瀬」

賢誓寺「萩原町」

慈雲寺「萩原町」

桂林寺「馬瀬」

西教寺「朝日町」

ご坊文化講座

第1回

日時 7月24日(金)

午後1時30分から

講師 梶井 正美氏

(元高山市助役・飛驒学会代表)

講題 「加藤清正公の歴史を訪ねて」

会場 高山別院 庫裡ホール

会費 1回 600円

3回通し

会員1000円

一般1500円

戦後70年を迎えて パネル展・講演会開催

非戦・平和展 パネル展 7月27日～8月16日(展示替えあり)

原爆の凶(丸木位里・俊作)ほか、非戦平和をテーマとしたパネルを展示します。

講演会

講題：日本国憲法と本願 — この国は何を捨て、どこへ向かおうとしているのか —

講師：平川宗信氏(名古屋大学名誉教授) 日時：7月27日(月)午後7時から

会場：高山別院 参加費無料

子ども奉仕団 8月19日(水)～21日(金)

京都の東本願寺に全国から子どもたちが大集合！みんなでおつとめしたり、おそうじをしたり、お話を聞いたり、遊んだりしながら一緒に生活します。

会場 東本願寺(京都市) 参加費 10,000円(食費・保険等含む) 対象 小学生4～6年生 締切 7月21日(火)

※お手次のお寺もしくは高山教務所にお申し込みください。



高山二組 若声会公開学習会 『原点が存在する』

日時 6月24日(水)

午後7時30分から

会場 高山別院御坊会館

講師 海 法龍氏

(東京教区長願寺)

内容 歎異抄第7章

「有障を生きる道」

聴講料 500円

受付終了のお知らせ

7月29日(水)～30日(木)開催の「児童夏のつどい」は参加申込人数が定員に達しましたので、受付を終了しました。

飛驒御坊ボランティア委員会からのお知らせ

飛驒御坊ボランティア委員会では、東日本大震災以降、宮城県女川町を中心に活動を続けています。このたび、参加者を募集いたしますので、ご希望の方は高山別院TEL0577-1321-0688(担当 杉野)までご連絡ください。

日程 7月4日(土)～6日(月)

活動内容 女川散策と交流会

参加費 ひとり 2万5千円

募集人数 若干名

野菜提供のお願い

福島県二本松市では、毎月10日と20日に「青空市場」が開催されており、全国各地の野菜や果物が届けられています。飛驒の野菜につきましても、まとめてお届けしておりますので、ご協力いただける方は高山別院までご連絡ください。



定例法座・法話(午後1時から) ○6月21日(日)：藤守博氏「常光寺」 ○6月27日(土)：大町慶華輪番 ○6月28日(日)：白尾宏氏「長圓寺」 ○7月1日(水)：牧ヶ野良三氏「遊浄寺」 ○7月11日(土)：三本昌之氏「蓮徳寺」 ○7月13日(月)：小谷秀道氏「蓮勝寺」